

平成 22 年度 事業計画

(社)日本カヌー連盟（以下「本連盟」という。）は、我が国におけるカヌースポーツの統括団体として、その社会的役割と責任を認識し、定款に基づいて以下の諸事業を遂行するものとする。

まず、公益目的事業の柱のひとつである競技会の運営をこれまで通り円滑に実施する。

次に本連盟は、国際競技力の強化を最重要課題として位置づけ、本年 11 月中国・広州で開催される第 16 回アジア競技大会で金メダルを含む複数個のメダル獲得を目指し、その先の 2012 年ロンドンオリンピックでのメダル獲得に向け、海外派遣事業を積極的に推進する。

その一方でオリンピック種目以外のカヌー競技の更なる普及・振興を図るとともに、レクリエーションカヌーの領域を重視し、誰もが享受できる生涯スポーツとして心身の育成や健康の増進に寄与する。併せて自然と共生するスポーツにふさわしく環境に関わる今日的なテーマに取り組むものとする。

昨年 9 月本連盟成田専務理事がアジアカヌー連盟会長に選任されたことにより、アジア地域の会長国である唯一の競技団体として、国際的な視野に立って、カヌー競技、ひいてはスポーツ全体の隆盛のため積極的に活動する。

上記の目的を達成するため組織・体制を整備し、活動の裏付けとなる財政基盤の確立を図ることとする。

以上の事業目標の達成を期し、ここに平成 22 年度事業計画を立案し、会員、加盟団体及び関係機関・団体との連携のもとに事業運営を行なう。

I. 競技会運営事業

[38,926 千円]

本連盟は、国内外のカヌースポーツの動向を見極めつつ、審判員制度の確立、指導者の育成、ドーピング防止など競技運営に関わる諸施策を遂行し、競技会の最高権威である日本選手権大会の開催、国民体育大会等々、充実した各種競技会の運営を実施するものとする。国民体育大会のカヌー競技は、全国のトッ

プアスリートが参加し、我が国のカヌースポーツの普及・振興の原動力であり、最も重要な国内競技会の一つとして位置づけられる。このことから、開催都道府県・会場地・協会等と十分な協力体制のもとに実施する。

- 1) 本年度のカヌースプリントナショナルチーム編成のため、2010 カヌースプリント海外派遣選手選考会、及び 2010 カヌースプリントジュニア海外派遣選手選考会（香川県坂出市）を開催する。
- 2) 第 33 回 NHK 杯全日本カヌースラローム競技大会（富山県富山市）を開催し、本大会を本年度のカヌースラロームナショナルチーム最終選考会と位置づける。
- 3) 第 65 回国民体育大会千葉大会を千葉県佐倉市（SP）、千葉県香取市（SL,WW）で実施する。また国体担当者会議を開催し、国体の充実・活性化を図る。
- 4) 日本カヌースプリント選手権大会（石川県小松市）、文部科学大臣杯平成 22 年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会（山梨県富士河口湖町）を開催する。
- 5) 日本カヌースラローム選手権大会・日本カヌーワイルドウォーター選手権大会（東京都青梅市）、カヌースラロームジャパンカップ（全国 4 会場）、カヌーワイルドウォータージャパンカップ（全国 5 会場）を開催する。
- 6) 日本カヌーポロ選手権大会（山梨県富士河口湖町）、ジュニア選手権大会（愛知県みよし市）をそれぞれ開催する。
- 7) 日本カヌーフリースタイル選手権大会（山形県西村山郡）を開催する。
- 8) JOC ジュニアオリンピック杯全国中学生カヌー大会（石川県小松市）を開催する。
- 9) カヌー艇及び用器具の安全管理を徹底するため、登録業者を認定し、用器具の公認検定・登録証の貼付を実施する。大会時における点検をルールに基づき厳正に実施する。
- 10) 平成 20 年 4 月 1 日より施行された「新審判員制度」を更に推進し、競技会の正常化や各種検定業務・審判講習会などの充実を図る。

Ⅱ．競技力向上事業

[157,088 千円]

2012年ロンドンオリンピックでのメダル獲得に向けて、国際競技力の向上を積極的に推進するため、強化部長を統括としてカヌースプリント強化委員会、カヌースラローム強化委員会を設置し、当該委員長・専任コーチ・担当コーチを中心とした強化体制を堅持する。同時に、海外派遣代表選手及び強化指定選手を選任するため選考委員会を適宜開催する。

特に本年度は第16回アジア競技大会に選手団を派遣し金メダル獲得を目指すと共に、国際カヌー連盟（ICF）が主催する各競技種目の世界選手権大会等に選手団を派遣し十全な成果を期するものとする。

一方、ジュニア・ジュニアユース・シニア等の合同合宿を実施し、次世代選手の育成に向けた施策を強力に展開する。

また、文部科学省・日本体育協会・JOC・スポーツ振興基金・スポーツ振興くじ・日本宝くじ協会・日本財団の助成事業（補助事業）を効果的に運用する。

1) 各競技のナショナルチームの編成は少数精鋭とし海外派遣事業を実施する。

2) 強化センターとして、カヌースプリントは石川県小松市・香川県坂出市を、カヌースラロームは富山県富山市、秋田県仙北市を活動拠点とする。また国際的に通用する競技力向上のため、トレーニング施設・解析装置・用艇・用器具など科学的な研究分野を、国立スポーツ科学センター（JISS）及びナショナルトレーニングセンター（NTC）との連携により推進する。

これらの強化センターを活動拠点として強化合宿等を積極的に実施し、国際競技力の向上を図る。

3) カヌースプリント世界選手権大会（ポーランド・ポズナン）、ワールドカップ（第1戦フランス・ヴィシー、第2戦ハンガリー・セゲド）に選手団を派遣する。

またジュニアはカレー国際競技大会（フランス・カレー）、ジュニア国際レガッタ（スロバキア・ピスタニー）に選手団を派遣する。

4) カヌースラローム世界選手権大会（スロベニア・リュブリャナ）、及びワールドカップ（第1戦チェコ・プラハ、第2戦スペイン・セオドゥウルヘル、第3戦ドイツ・アウグスブルグ）、アジア競技大会テストイベント（中国・

広州) アジアカヌースラローム選手権大会 (中国・貴州) スロバキアオープン (スロバキア・プラチスラバ) に選手団を派遣する。

また、ジュニアは世界選手権大会 (フランス・ホックス) に選手団を派遣する。

- 5) 第 16 回アジア競技大会 (中国・広州) に選手団を派遣し、カヌースプリント・カヌースラローム・ドラゴンボートに出場。金メダルを含む複数のメダル獲得を目指す。
- 6) ドラゴンボート世界選手権大会 (ハンガリー・セゲド)、アジアドラゴンボート選手権大会 (台湾・新店) に選手団を派遣する。
- 7) カヌーワイルドウォーター世界選手権大会 (スペイン・ソート) に選手団を派遣する。
- 8) カヌーポロ世界選手権大会 (イタリア・ミラノ) に選手団を派遣する。
- 9) カヌーフリースタイルワールドカップ第 1 戦 (ドイツ・アウグスブルグ) に選手団を派遣する。

Ⅲ. 普及活動

[12,872 千円]

近年のカヌースポーツは、競技種目が多様化し、且つジュニアからシニア、心身に障害を持つ方々まで愛好者は増加の一途を辿っている。そのニーズに応えるため、レクリエーションカヌー、パラカヌー、カヌーツーリング、ラフティング、カヌーマラソン等の普及・振興に取り組む。

またカヌースポーツの普及・振興に関わる活動は、指導者の育成、安全対策、広報・情報活動等々多岐にわたっており、これらの要素を十分踏まえつつ、地域の環境 (ウォータークリーン) にも配慮し、生涯スポーツとしての位置づけに留意しつつ次の事項に取り組む。

1) 指導者の育成と活用

全国のカヌー愛好者のニーズに応えるため、従来からの競技力向上のための指導者養成事業と併せて、地域カヌースポーツ公認指導員 (インストラクター) 等の養成を積極的に進め、指導者の派遣等の環境を整備する。

2) 安全対策

カヌー愛好者に対する安全管理の周知徹底と、スポーツ安全保険への積極的加入の推進に努める。

3) 広報・情報活動

本連盟が主催・共催する競技会、並びに国際大会に係わる情報提供を正確かつ迅速に行うと共に、カヌースポーツの普及・振興に関する広報・情報活動を積極的に推進し、引き続き正確で遅滞ない情報の発信と、マスメディアへの対応に務める。

(1) 本連盟の公式ホームページの更なる充実を期するため、全面改訂を行い本年4月1日よりリニューアルオープンする。一方携帯サイトの利便性を重視し、更新頻度を高めると共に内容の充実を図る。

また機関紙「CANOE」第36号及び「平成22年度主要競技大会記録」を発行する。これによりWebサイト・携帯サイトの充実と併せて、一般社会へのインフォメーション機能、並びに会員サービスに努める。

(2) メディア対応については、各メディアとの協力体制を強化し、情報の発信・収集に資するためメディア対応・情報戦略委員会を設置し広範囲で充実した情報の授受を図る。

4) レクリエーションカヌー、ラフティング、パラカヌー、カヌーマラソン委員会を設置し普及活動を促進する。

5) 第8回三浦シーカヤック大会に全国47都道府県シーカヤック駅伝種目を実施し会員の増加を図る。

6) 日本財団からの助成事業として、障害者と健常者がカヌーを通じて一同に会し、カヌースポーツの素晴らしさを体験できる「カヌー体験研修会」を全国4箇所で開催する。

7) ブルーシー・アンド・グリーンランド財団の協力により「B&G杯全国少年少女カヌー大会」(山梨県富士河口湖町)を開催する。

8) (財)宝くじ協会からの助成を受け、カヌーの普及・振興を推進する。

IV. 国際貢献

[15,452千円]

我が国を代表するカヌースポーツの統括団体として、本連盟は国際カヌー連

盟（ICF）及びアジアカヌー連盟（ACC）において、近年その存在感を高めてきた。とりわけ昨年アジアカヌー連盟総会で成田専務理事が会長に選任されたことにより、これまで以上に本連盟には、その国際的な立場にふさわしい活動が求められる。従って ICF と ACC の総会・理事会・委員会に役員を派遣し、特に ACC についてはスプリントのみならずスラローム・カヌーポロ・ドラゴンカヌー一等の委員会への委員派遣を検討する。これらの施策により本連盟の意思をこれまで以上に鮮明にし、その職責を果たすものとする。

- 1) ACC の会長国として、ICF と ACC の連携を促進しカヌー界の発展に寄与する。
- 2) ICF の総会(スペイン)、及び 2 回の理事会、4 回のエグゼ会議に成田専務が副会長として出席する。2012 年ロンドンオリンピックからオリンピック種目の男女比率の平均化を図ること、パラリンピックへのカヌー競技参入などが協議される。
- 3) ACC は 2 回の理事会と 4 回のエグゼ会議を会長として主催する。
- 4) 成田専務は、カヌースプリント、カヌースラローム、ドラゴンカヌーの世界選手権大会のジュリー、並びに第 16 回アジア競技大会の競技会会長及びジュリーの要職を担う。
- 5) カヌースプリント、カヌースラローム、ドラゴンカヌーの世界選手権大会や第 16 回アジア競技大会に競技役員を派遣し、十全にそれぞれの職責を果たすものとする。なお第 16 回アジア競技大会は古谷強化部長が競技委員長を担当する。
- 6) 日韓スポーツ交流事業を推進するため、両国の友好と競技力の向上を図る観点から派遣事業・受入れ事業を継続して実施する。
- 7) カヌースプリント世界選手権（ポーランド・ボスナン）でのパラカヌー種目に選手を派遣する。
- 8) 次年度以降、国際大会の誘致を検討する。

V. 財政の確立

[19,019 千円]

本連盟は、社団法人として、定款に定める目的を達成するため、その裏付けと

なる財源の確保を目指し、会員の加入を積極的に推進するなど健全な事業運営を図るものとする。

- 1) 賛助会員登録数の増加、各事業における補助金・助成金に対する負担金の確保、免税募金など、継続してその実現化を図る。
- 2) 名誉会員・顧問・参与の登録料について検討する。
- 3) 賛助会員（役員登録・審判登録・選手登録・その他）の登録増加に務め、各県 200 名以上の登録会員確保と併せて特別賛助会員の増員の要請を積極的に推進する。
- 4) 登録業者認定制度の確立を図り、更なる認定の拡大を目指す。
- 5) カヌースポーツの普及・振興を目的として、カヌー競技技術解説書・大会会場内施設・プログラム・ゼッケン・パンフレット・ナショナルチーム選手のユニフォーム・用艇・用器具などを媒体とする広告掲載への協力を積極的に進めるため、関係者及び団体等へ協賛広告の協力依頼を行なう。
- 6) 会員登録カードの機能を充実し、本連盟会員組織の規模拡大、財政基盤の強化、会員サービスの向上を目的として、各都道府県協会及び公認登録業者の協力のもとに、会員管理システムの充実とその効率的運用を図る。
- 7) 本連盟の十全な事業活動を裏付ける財源の確保を目的として、競技会のイベント化等新規の収益事業の開発に向け、外部エージェントとの協力関係の下に具体的な可能性について検討する。
- 8) 普及活動の一環として、連盟公認グッズ（クラブタイ、エンブレム、カフス等）の販売を行なう。

VI. 平成 22 年度主要競技会・行事等日程表

（別紙を参照）